

研究報告

新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修における 保健所臨床研修プログラムの紹介

伊藤 晴江¹⁾ 後藤 夕貴²⁾ 中島 貴子^{1,3)}
石崎 裕子¹⁾ 奥村 暢旦¹⁾ 塩見 晶³⁾
藤山 友紀⁴⁾ 藤井 規孝^{1,3)}

抄録：新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラムの保健所臨床研修についてその内容と学習効果について検証したので報告する。新潟市保健所で行われた研修の内容には食、環境に関する内容も数多く含まれており、多様な分野について学習するよう研修プログラムが組まれていた。また、研修全体を通して歯科以外の様々な専門職種の方々と情報交換の機会があり、多職種連携の重要性の実際を体感できるプログラムとなっていた。本研修を通して公衆衛生学の基本的事項のみならず地域医療の実態についても理解が深められ、超高齢社会に必要な不可欠な地域包括ケアシステムでの対応の基本となる多職種連携が出来る歯科医師の育成に効果があると考えられた。

キーワード：保健所 公衆衛生学 多職種連携

緒言

近年、予防医学の普及と超高齢社会の到来を迎え公衆衛生学の重要性は増している¹⁾。歯科医師臨床研修は、歯科医師としての基盤形成の時期に患者中心の全人的医療を理解した上で基本的な診療能力を修得することにより資質の向上を図ることが目的とされている。また、歯科医師には地域の医療提携体制の整備にあたって重要な役割を果たすことが期待されており、公衆衛生学が歯科医師臨床研修においても重視されている²⁾。しかしながら多くの研修歯科医は病院や診療所での臨床研修を主体^{3,4)}とし、公衆衛生学を学ぶ機会をなかなか得られないのが現状である。

新潟大学医歯学総合病院の単独型臨床研修には新潟県内の保健所にて公衆衛生の実践について学ぶ機会があるが、このようなプログラムは一般的ではなく、またこういったプログラムの効果を検証している先行研究もほとんど見られない。

今回、新潟市保健所臨床研修^{5,6)}に参加を希望し実際に研修を行った研修歯科医にアンケート調査を実施し、保健所研修の有用性について検証したので報告する。

対象および方法

保健所臨床研修は新潟市保健所（以下「市保健所」という。）にて平成27年度5月から10月までの期間に4回にわけ、それぞれ5日間ずつ行われた。アンケート調査の対象は平成27年度新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラム（単独型）に在籍した研修歯科医のうち新潟市保健所臨床研修に参加した4名とした。アンケートの実施に当たり、調査は保健所臨床研修終了後に無記名式で行うこと、回答結果は研修の評価対象とならないこと、調査への協力は自由意志によることを説明した。質問内容は保健所臨床研修の実態と改善点の把握を目的として、①研修の有意義性、②研修期間、③保健所担当者の指導熱意、④研修歯科医のニーズとの一致性、⑤研修の達成度に関する自己評価を設定し、それぞれ4あるいは3段階で回答することとした。アンケートの質問項目について表1に示す。なお、本アンケート調査は新潟大学歯学部倫理審査委員会による承認を得て行った（承認番号27-R27-1-19）。

結果

アンケートの回答は、参加したすべての研修歯科医

¹⁾ 新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部

²⁾ 新潟大学医歯学総合病院研修歯科医

³⁾ 新潟大学医歯学総合研究科歯学教育研究開発学分野

⁴⁾ 新潟市保健衛生部保健所健康増進課

¹⁾ General Dentistry and Clinical Education Unit, Medical and Dental Hospital Niigata University

²⁾ Dental Trainee, Medical and Dental Hospital Niigata University

³⁾ Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Division of Dental Research and Educational Development

⁴⁾ Health and Sanitation Department, Public Health and Sanitation Center, city of Niigata

表 1 保健所臨床研修に関するアンケート質問項目

問 1	保健所研修は有意義でしたか？
問 2	問 1 で有意義だった, やや有意義との回答の方へ: 有意義だった, 良かったと思われる研修項目を 3 つあげてください。
問 3	問 1 であまり有意義でなかった, 有意義でなかったと回答の方へ: 有意義でなかった点・研修項目がありましたらあげてください。
問 4	保健所研修の期間はhowでしたか？
問 5	問 4 で適切であったと回答した以外の方へ: どのくらいの期間が望ましいですか？ (理由も)
問 6	保健所研修担当者の対応について, <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する熱意を感じましたか？ ・研修歯科医を理解・尊重してくれましたか？ ・質問しやすい雰囲気でしたか？ ・指導内容は充実していましたか？
問 7	保健所研修担当者の対応について, どういう点が良かったですか？
問 8	保健所研修担当者の対応について, どういう点を改善してもらいたいですか？
問 9	保健所研修の内容が, 臨床歯科医として, あなたが学びたい内容と一致していましたか？
問 10	保健所研修を通じてあなたが学びたい内容を記載してください。(複数回答可)
問 11	地域歯科保健への理解・興味が増しましたか？
問 12	来年度も保健所研修を実施した方が良いと思いますか？
問 13	問 12 の理由について記載してください。(複数回答可)
問 14	今回の保健所研修の達成度について 4 段階で自己評価してください。(いずれか 1 つに○をつけてください) 1. 十分達成された 2. 概ね達成された 3. 一部達成された 4. 達成されなかった

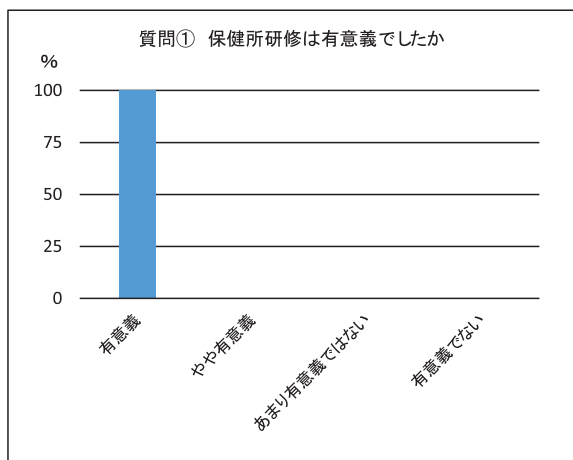


図 1 保健所臨床研修の有意義性に関する質問

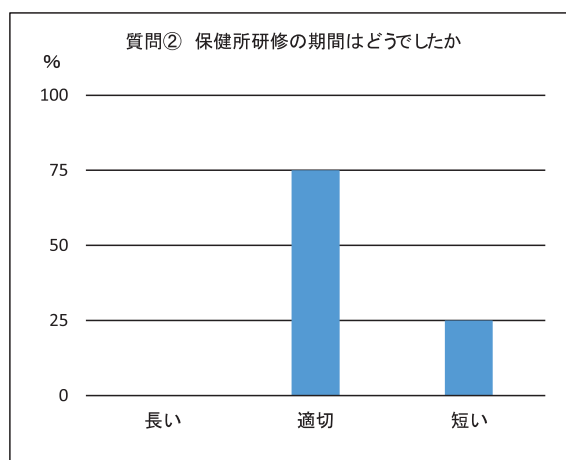


図 2 保健所臨床研修の期間に関する質問

から得ることができた。保健所臨床研修の有意義性を問う質問に対しては, 全員が有意義と回答した (図 1)。研修期間については 5 日間を適切と考える研修歯科医が大半を占めており, 一部にさらに長期を希望する意見がみられた (図 2)。保健所の研修指導担当者の熱意に関しては, 全員が「感じた」「やや感じた」と回答していた。また, 研修歯科医を尊重してくれる姿勢を感じた, 質問しやすい雰囲気を作ってくれたなどのコメントもあげられていた (図 3)。研修歯科医が保健所臨床研修に期待する内容との一致性を問う質問に対しては, 全員が「だいたい一致していた」と答えて

いた (図 4)。各研修歯科医にそれぞれの保健所臨床研修の達成度を尋ねた結果においても, すべての研修歯科医より「十分達成できた」との回答を得た (図 5)。また, これに関連して対象者 1 名が行った研修内容についての分析結果, および自己評価による研修達成度評価の結果を図 6, 図 7 に示す。これによると研修内容は多岐にわたっており医療・保健関連の分野が多くを占めつつも環境関連, 食関連など医療以外の分野についても研修する機会が設けられていた。また項目毎の到達目標について対象者による自己評価では目標の達成度はかなり高い値にあった (図 6)。研修方式

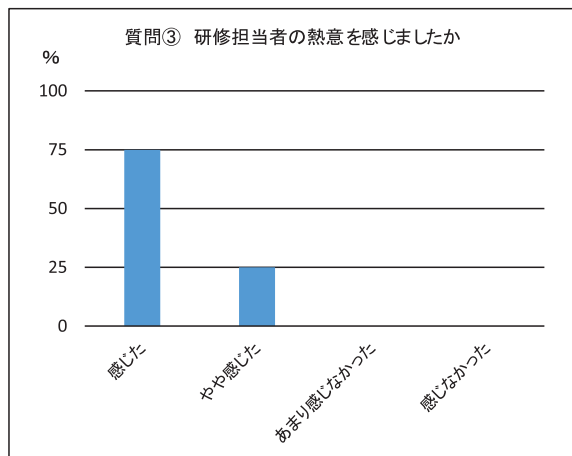


図 3 研修担当者の指導熱意に関する質問

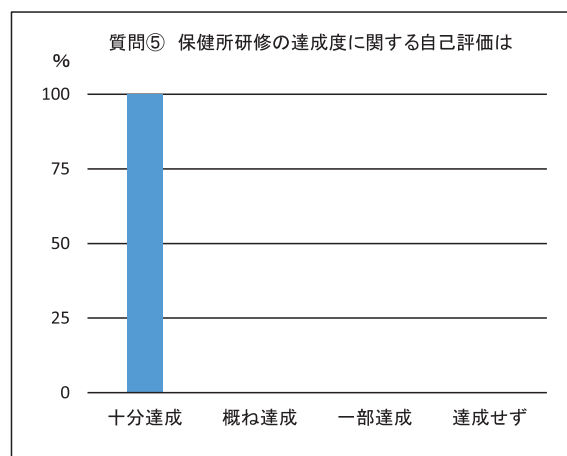


図 5 保健所臨床研修の達成度に関する自己評価

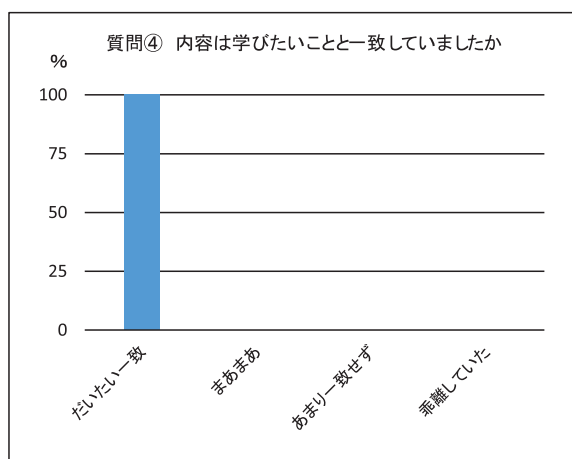


図 4 研修歯科医のニーズとの一致性に関する質問

は講義と施設見学・実習が主体とされており研修時間でみると講義は 35%, 施設見学・実習は 65%の割合であり, 実践的な内容が多く含まれていた (図 7)。

考 察

今回の結果から, 市保健所における保健所臨床研修は研修歯科医にとって有意義であり, 参加した研修歯科医に十分な満足感や達成感を与えていることが示された。新潟大学医歯学総合病院歯科では平成 18 年度研修必修化当初より保健所臨床研修を実施しており, 定期的に管理型施設と保健所関係者との協議会を行ってきた。保健所臨床研修の内容や期間等, 研修のカリキュラムについては, 平成 18 年度臨床研修必修化当初より, 市保健所が主に作成しているが, 毎年度の研修歯科医のアンケート結果や同協議会での意見を踏まえ, 市保健所側がカリキュラムの改善を毎年度行ってきた。今回の結果は, 大学と市保健所の相互理解の深さによる協働が大きく関係していると考えられた。臨

床研修は on the job training であるため, 研修歯科医はどちらかといえば講義を聴講するよりフィールドワークを好む傾向があると思われる。図 7 で示したように施設見学・実習の割合が全研修時間の 6 割以上となっていることは保健所臨床研修関係者が研修歯科医のニーズを的確に理解し, 効果的なプログラムを準備してくれていることを示唆していると考えられた。

また, 事後報告の内容から保健所臨床研修に参加したすべての研修歯科医は, 特に以下の 3 項目について知識を深め, 貴重な体験をすることができたと考えられた。

1 つ目は, 「保健所の基本的な役割についての幅広い知識」を得たことである。例えば, 保健所臨床研修には食品や環境など普段馴染みのない分野での研修が多く含まれているにもかかわらず, 研修歯科医の目標達成度の自己評価は高い値を示した。このことにも実践的な内容が多く, 初めて触れる分野でも知識と経験を得ることが比較的容易であったことが関係していると思われる。2 から 3 名の少人数で研修が行われ, 講義が会話形式で進み質問し易い環境が用意されていたこと, 自分とは違う視点から出される他の研修歯科医の意見を聞いたこと等も知識の定着を促したように思われた。

2 つ目に「公衆・集団への視点」があげられる。特に「歯科口腔保健研修」について講義と実習の両方が行われ, 保健所における歯科医師・歯科衛生士の役割や業務内容, 地域住民に対するフッ化物応用や検診に関する啓発活動などを実体験として吸収できる内容が用意されていた。個人の口腔衛生習慣・生活環境に関わらず, より多くの人々に口腔の健康を向上・保持するための機会を提供するという公衆衛生施策は, 行政の歯科専門医が「集団」を対象として活動するという点において患者という「個人」を対象とする臨床と大きな違いがある。本保健所臨床研修では, 地域保健活

課・係 (事業内容分類)	研修内容 (事業相手分類)	研修時間	到達目標	目標の 達成度
医監 (環境)	公衆衛生学 (対人)	90分	疾病の地域格差に関する報告を材料として格差が生じた理由について意見交換を行い、社会疫学の視点から疾病予防の取り組みについて理解を深め、臨床医の立場で予防活動ができるようにする。	4
地域医療推進課 (医療・保健)	地域包括ケア (対人)	30分	超高齢化社会を迎える中、多様な疾病を抱えた高齢者をケアするシステムを理解し、地域における医療・福祉・介護及び行政等の多職種連携について学ぶ。	4
母子・歯科保健係 (医療・保健)	母子保健 (対人)	90分	・新潟市の母子保健事業のアウトラインを理解する。 ・医療費助成制度を知り、意見書の記載ができるようになる。	4
母子・歯科保健係 (医療・保健)	歯科保健 健康講話 (対人)	60分 作成225分 講話150分	保健所における公衆衛生及び健康増進活動を知るとともに、地域歯科護憲活動の重要性を理解する。	5
健康づくり推進室	健康づくり・食育 (対人)	90分	新潟市民の健康づくりの現状と取り組みについて知り、自身の栄養バランスをチェックして健全な食生活のあり方を知る。	5
保険管理課 (医療・保健)	保健師業務 (対人)	30分	地域における公衆衛生看護活動、および保健師と連携した公衆衛生業務について理解する。	5
企画管理係 (環境)	人口動態 (対物・対環境)	30分	・死亡診断書の正しい書き方を習得する。 ・地域の人口動態統計を用いて地域特性を理解する。	4
医療指導係 薬事指導係 (医療・保健)	医務薬事 薬局訪問 (対人)	90分 210分	調剤業務の流れ、手技、処方箋の疑義照会を理解する。	5
感染症対策室 (医療・保健)	感染症対策 (対人)	60分	・感染症対策における保健所の役割について理解する。 ・感染症の成立条件と基本的な予防策について理解する。 ・社会的に対応が必要な感染症や健康危機事例について、必要時に保健所に相談や情報提供ができる。	4
食の安全推進課 (食関連)	卸売市場訪問 食の安全講義 (対物・対環境)	210分	・食品衛生に関連した取去検査を経験する。 ・食品衛生に関連した監視指導に同行する。 ・食中毒に関連した事例を経験する。	4
環境衛生係 (環境)	衛生環境研究所訪問 座学 (対物・対環境)	120分 60分	・レジオネラ症に関する基礎的知識について学習する。 ・動物由来感染症及びびねずみ・衛生害虫に関する基礎的知識について学習する。 ・狂犬病予防・動物愛護管理等の基礎的知識について学習する。	5
生活環境係 (環境)	動物愛護センター訪問 座学(害虫駆除)	150分 60分	同上	5
衛生環境研究所 (環境)	訪問 (対物・対環境)	120分	・食品衛生や感染症対策に関連した検査を、実際の施設、状況を見学することにより理解する。 ・その他衛生環境研究所で行われている業務全般について見学を通じて理解する。	3
食肉衛生検査所 (食関連)	訪問 (対動物)	180分	・食肉衛生検査所の概要について見学を通じて理解する。	5
こころの健康センター (医療・保健)	訪問 (対人)	180分	・地域保健福祉における保健所業務を理解する。 ・精神保健福祉センターにおける相談業務について理解する。 ・自殺総合対策を理解する。	4

(5:達成できた 4 概ね達成できた 3:どちらともいえない 2 あまり達成できなかった 1.達成できなかった)

図 6 保健所臨床研修に参加した研修歯科医による自己分析 (研修内容と達成度)



図 7 保健所臨床研修における講義・実習の構成比

動の場を活用し、市職員が同席した上で、研修歯科医自らが、実際に地域住民を対象に、歯科医師として歯科口腔保健について講話を行う機会が設けられていた。講話およびその質疑応答をとおり、研修歯科医は一般の地域住民が歯科口腔保健に対してどのようなことを感じました、考えているのか感じ取ることができると共に、超高齢社会における予防歯科医学普及の重要性を認識したようであった。

3つ目として「多職種連携の重要性」を加えることができる。保健所の施設は全ての課・係が2つのフロアに存在しており、頻繁に他職種と接することができた。また、医療関係以外の多くの専門職種の方々との情報交換やそれぞれの職務を理解する機会があった。研修歯科医は、保健所で日常的に行われている一連の業務の流れの中に身を置くことにより、多職種連携の意義を体験的に理解し、歯科医師としてチームに参加しながら有機的に連携することの大切さを感じたようであった。

なお、本研究は調査対象者が少ないため、結果の信頼性には限界があると考えられる。今後さらに対象者を増やすと共に保健所臨床研修の充実を図り、調査の精度を高めていく予定である。

結 論

歯科医師はその高い専門性が故に、歯科医療という枠組みを越えた他職種の人々と共同で活動したり、異分野に触れたりする機会は少ない。同時に、自らの職業を客観的に見る機会もなかなか得難い。研修歯科医にとって、保健所臨床研修は普段の枠組みを少し離れ、社会の中における歯科医師の立場を再考する良い機会となり、彼らの今後にとって大きな意義があると考えられた。

謝 辞

稿を終えるにあたり、通常業務に加えての労を厭わず新潟大学歯学総合病院歯科医師臨床研修にご協力下さった新潟県および新潟市保健所の皆様に厚く御礼申し上げます。

本論文には利益相反に関する内容は含まれておりません。

文 献

- 1) 花田信弘. 歯科医師が公衆衛生の分野で活躍するために—歯科医師法一部改正の必要性とその科学的根拠—. ヘルサイエンス・ヘルスケア 2007; 7: 57-60.
- 2) 厚生労働省. 歯科医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する省令.
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/>

[gaiyou/kanren/syorei.html](http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-gaiyou/kanren/syorei.html) (最終アクセス日 2016 年 4 月 29 日).

- 3) 厚生労働省医政局歯科保健課. 平成 26 年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査結果 (概要).
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000095056.pdf> (最終アクセス日 2016 年 4 月 29 日).
- 4) 厚生労働省医政局歯科保健課. 平成 25 年度歯科医師臨床研修修了者アンケート調査結果 (概要).
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000079265.pdf> (最終アクセス日 2016 年 4 月 29 日).
- 5) 新潟市保健所. 新潟市保健所臨床研修医及び研修歯科医の受け入れに関する要項.
<http://www.city.niigata.jp/kensaku/youkou/files/public/01006.pdf> (最終アクセス日 2016 年 4 月 29 日).
- 6) 竹内 裕, 藤山 友紀, 田代 敦志, 山崎 哲. 保健所研修を通じた地域に貢献出来る人材育成のあり方. 大同生命厚生事業団第 14 回「地域保健福祉研究助成」報告集 2007; 90-94
http://www.daido-life-welfare.or.jp/research_papers/19/welfare_19.pdf (最終アクセス日 2016 年 4 月 29 日).

著者への連絡先

伊藤 晴江
〒 951-8520 新潟県新潟市中央区旭町通 1 番町 751 番地
新潟大学歯学総合病院歯科総合診療部
TEL 025-227-0989 FAX 025-227-0991
E-mail : harue@dent.niigata-u.ac.jp

A report on the public health and sanitation center training program
in the post-graduate clinical training dentistry at Medical and
Dental Hospital Niigata University

Harue Ito¹⁾, Yuki Goto²⁾, Takako Nakajima^{1,3)},
Hiroko Ishizaki¹⁾, Nobuaki Okumura¹⁾, Aki Shiomi³⁾,
Yuki Fijiyama⁴⁾ and Noritaka Fujii^{1,3)}

¹⁾General Dentistry and Clinical Education Unit, Medical and Dental Hospital Niigata University

²⁾Dental Trainee, Medical and Dental Hospital Niigata University

³⁾Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences,
Division of Dental Research and Educational Development

⁴⁾Health and Sanitation Department, Public Health and Sanitation Center, city of Niigata

Abstract : The effective results were given to the dental trainee by the Public Health and Sanitation Center in Niigata city that was included in the training program of post-graduate clinical training dentistry at the Medical and Dental Hospital Niigata University. The public health and sanitation center training program had many subjects and the trainee was exposed to some workplaces concerning to foods sanitation or environmental hygiene. The program served the opportunities to have meetings with professional staffs of those workplaces and let the dental trainee notice the significance of the multidisciplinary cooperation. It was suggested that the public health and sanitation center program was so meaningful for the dental trainee to know public health system. This program was also considered as one of useful methods for educating the dentist to contribute the regional comprehensive care management that would be essential in the Japanese high aging society.

Key words : The public health and sanitation center training program, public health, multidisciplinary cooperation